

日常生活の「できる」が増える言葉かけを

日常生活の「できる」を増やすために大切なのは、子供の特性を理解して、望ましい行動を「ちゃんと伝える」ことです。言葉かけの具体例を場面ごとに紹介しますので、参考にしてみてください。

朝の支度を次々とかなせない

絵カードを見せながら、「歯をみがくよ」「着替えだよ」と次にやることを具体的に短い言葉で指示します。目に見えないものを理解することが苦手な子供にとって、「早くしなさい」「次は何するの？」などという言葉は、理解しづらい言葉がけです。



宿題をやろうとしない

「終わったらおやつにしよう」「早く終われば遊べるよ」などと、宿題の後に楽しいことが待っている、頑張ったらご褒美があるという言葉がけをします。そして、終わった後に「よく頑張ったね」という親のほめ言葉も重要です。



簡単そうなことができない

今できることを、「できたね!」「頑張ったね!」と一緒に喜んで、うんとほめてあげてください。高いレベルのことを求めるのではなく、今普通にできていることを喜んであげることが一番です。何かができるまでには時間がかかるので、「なんでこんな簡単なこともできないの?」などのマイナスな言葉は、子供の成長にとって逆効果になります。



乱暴な言葉を使う

「その言葉、お母さんは嫌い」「その言葉を使ったら、お母さんは悲しい」と真剣な表情で穏やかに伝えます。子供が乱暴な言葉をわざと使うのは、まわりの反応をおもしろがっているのです。「そんな言葉はダメ!」や、「やめなさい」と過剰に反応するのは逆効果です。

